

アメリカ学会 会報 巻頭言 (1-168号)

号数	発行日	巻頭言	巻頭言タイトル
1	1966年 5月	松本重治	発刊の辞
2	1966年 8月	大沢衛	トマス・ウルフの兄と語る
3	1966年 11月	木内信蔵	サワー博士とアメリカの文化地理学
4	1967年 2月	小原敬士	アメリカのある著者—M.J. フィッシャーさんのこと—
5	1967年 5月	Avery Craven	A HUNDRED YEARS LATER
6	1967年 8月	杉木喬	アメリカ文学と高垣松雄教授 (II)
7	1967年 11月	斎藤真	ノールウェイとアメリカ研究
8	1968年 2月	井出義光	ケンブリッジ通信
9	1968年 5月	清水博	わが国のアメリカ研究： 継続と断絶
10	1968年 8月	中屋健一	10日間のアメリカ雑観
11	1968年 11月	猿谷要	黒人史の学会から
12	1969年 2月	大橋吉之輔	友への手紙
13	1969年 5月	鶴飼信成	アメリカの大学
14	1969年 8月	今津晃	「大アメリカの叙事詩」について
15	1969年 11月	鍋島能弘	ミッド・ウェストから
16	1970年 2月	鳥羽欽一郎	アメリカ研究と日本
17	1970年 5月	Warren I. Cohen	AMERICANS AND JAPANESE IN EAST ASIA, PAST AND FUTURE: AN AMERICAN VIEW
18	1970年 8月	小原敬士	公害と民主主義
19	1970年 11月	嘉治元郎	オーストラリア・ニュージーランド=アメリカ学会会議に出席して
20	1971年 2月	久保田きぬ子	フィリッピンでのアメリカ研究セミナーに参加して
21	1971年 5月	George H. Knoles	CONTEMPORARY AMERICAN HISTORIOGRAPHY
22	1971年 8月	大橋健三郎	アメリカ研究と文学
23	1971年 11月	高野フミ	アメリカ女性のイメージ
24	1972年 2月	有賀貞	第8回フィリッピン・アメリカ研究セミナーに参加して
25	1972年 5月	清水博	小原前会長を偲んで
26	1972年 8月	佐伯彰一	Americanismと日本主義
27	1972年 11月	安場保吉	最近のアメリカ経済史学界
28	1973年 2月	斎藤光	アメリカ作家の全集
29	1973年 5月	Harold M. Hyman	A DILEMMA OF RECONSTRUCTION IN AMERICA
30	1973年 8月	オーテス・ケーリ	アメリカにも天皇制？
31	1973年 11月	武者小路公秀	三角関係のむずかしさ
32	1974年 2月	本間長世	アメリカ歴史学会に参加して
33	1974年 5月	Lawrence S. Wittner	THE HISTORIOGRAPHY OF THE COLD WAR ERA
34	1974年 8月	阿部齊	ある所感
35	1974年 11月	三輪公忠	占領下日本の対米イメージ—地方的特質について—
36	1975年 2月	田中英夫	“Chairperson”—最近のアメリカでの男女平等の問題をめぐって—
37	1975年 5月	Robert A. Rosenstone	THE COUNTER CULTURE IN AMERICA
38	1975年 8月	菅泰男	映画とアメリカ
39	1975年 11月	久保田きぬ子	アジア・太平洋地域アメリカ研究者会議を終えて
40	1976年 2月	榊原胖夫	ミセス・マイナー
41	1976年 5月	Howard B. Schonberger	THE OCCUPATION OF JAPAN THROUGH AMERICAN EYES
42	1976年 9月	井門富二夫	アメリカにおける日本研究の動向
43	1976年 11月	斎藤真	原点としての原典
44	1977年 2月	本間長世	Belmont 会議に出席して
45	1977年 5月	Stanley I. Kutler	IMPEACHMENT
46	1977年 9月	泉昌一	GHQ/SCAP 資料の一括収集について
47	1977年 12月	市川統洋	「アメリカ研究」学会に出席して
48	1978年 2月	有賀貞	アメリカ研究翻訳書展望
49	1978年 5月	Merrill Jensen	THE COLLECTION AND REPUBLICATION OF THE MATERIALS FOR AMERICAN HISTORY
50	1978年 9月	久保田きぬ子	プリンストン随想
51	1978年 11月	高木八尺	国際交流基金賞受賞に際して
52	1979年 2月	今津晃	近年のアメリカ雑感
53	1979年 5月	島田太郎	ハーヴァード大学のメルヴィル関係資料
54	1979年 9月	榊原胖夫	インドのインター・ディシプリナリー・セミナーに参加して
55	1979年 11月	後藤昭次	ASAの大会に出席して
56	1980年 2月	富田虎男	わが国におけるインディアン史研究
57	1980年 5月	中屋健一	アメリカ学会創設の頃
58	1980年 9月	渡辺利雄	The Songs My Mother Never Taught Me
59	1980年 11月	五十嵐武士	アマストにて—日米関係を想いつつ
60	1981年 2月	宇佐美滋	テレビ討論雑感
61	1981年 5月	佐々木みよ子	アメリカの法話話—移動と変貌
62	1981年 9月	藤倉皓一郎	アメリカ最高裁への女性判事指名
63	1981年 11月	大下尚一	Conner Prairie Pioneer Settlementを訪ねて
64	1982年 2月	猿谷要	周辺からアメリカを見る
65	1982年 5月	斎藤真	「独立宣言」における独立—主としてトマス・ジェファソンの場合—
66	1982年 9月	佳知晃子	移民研究の今昔

67	1982年 11月	井出義光	プランターになり損ねた話
68	1983年 2月	中川徹子	19世紀コミュニティの跡を訪ねて
69	1983年 5月	正井泰夫	アメリカ型都市景観—随想—
70	1983年 9月	鈴木重吉	猛暑に懐古す
71	1983年 11月	陣崎克博	港に帰れなくなった船
72	1984年 2月	織完	プリンストンの学部教育
73	1984年 5月	今津晃	アメリカ連邦制立て直し論に関する一考察
74	1984年 9月	齋藤眞	高木八尺先生とアメリカ学会設立
75	1984年 11月	松山信直	上野直蔵先生を偲ぶ
76	1985年 2月	志邨晃佑	アメリカ社会史からの一つのしろうと談義
77	1985年 5月	田島恵児	ハミルトン研究の史料探訪
78	1985年 9月	古屋安雄	アメリカ宗教の多元化
79	1985年 11月	長沼秀世	Herbert Gutman氏を悼む
80	1986年 2月	阿部斉	久保田きぬ子先生を偲んで
81	1986年 5月	嘉治元郎	ドルの運命
82	1986年 9月	本間長世	『アメリカ史文献英文解題』 LEWIS HANKE ed. GUIDE TO THE STUDY OF UNITED STATES HISTORY OUTSIDE THE U.S. 1945-1980 5 Vols. KRAUS INTERNATIONAL PUBLICATIONS, 1985
83	1986年 11月	佐藤宏子	「宿命の男」は何故描かれないのか
84	1987年 2月	新川健三郎	「アメリカ型編集様式」
85	1987年 5月	井出義光	中屋健一先生を偲ぶ
86	1987年 9月	青木怜子	アル・スミスの孫娘たち
87	1987年 11月	オーテス・ケーリ	アメリカ研究夏期セミナーを振り返って
88	1988年 2月	菅泰男	京都セミナーへの追想
89	1988年 5月	五十嵐武士	マディソンとのみちゆき
90	1988年 9月	井出祥子	アメリカ流の論文・ヨーロッパ流の論文
91	1988年 11月	平野孝	フロンティア史の消滅?
92	1989年 2月	齋藤眞	松本重治先生とアメリカ研究
93	1989年 5月	池本幸三	近代史の「オデュッセイア」—植民地時代の移民史の一視覚—
94	1989年 9月	有賀夏紀	アメリカ民主主義の根—雑感
95	1989年 11月	亀井俊介	「花火ごころ」さまざま
96	1990年 2月	本田創造	"A glass that is half full or a glass that is half empty"
97	1990年 5月	野村達朗	1950年代とアメリカ史研究
98	1990年 9月	榊原胖夫	アメリカの交通インフラストラクチャーについて
99	1990年 11月	藤田文子	歴史は生きている
100	1991年 2月	岡田泰男	胡桃割人形と自動車
101	1991年 5月	長田豊臣	南北戦争研究と最近の動向
102	1991年 10月	井上謙治	ザルツマン教授の提案
103	1991年 11月	瀧田佳子	あるアメリカ航路—ドイツ—
104	1992年 2月	安武秀岳	人民主権とユニオン
105	1992年 5月	板橋好枝	文学史書に見られるアメリカ人の意識の変遷
106	1992年 9月	岩野一郎	日米フルブライト計画40周年とアメリカ研究
107	1992年 9月	金関寿夫	ある体験的アメリカ研究
108	1993年 2月	飯野正子	日米関係は「うまくいっていない」?
109	1993年 5月	嶋原眞一	現代オペラのアメリカ
110	1993年 9月	綾部恒雄	アメリカ"旅情"3題
111	1993年 11月	明石紀雄	ジェファソンの黒人の子孫
112	1994年 2月	杉森長子	ルクレシア・モット生誕200年によせて
113	1994年 5月	松田武	アメリカ研究の方法と課題
114	1994年 9月	齋藤忠利	"scars and stripes"
115	1994年 12月	太田俊太郎	ポスト・モダン・プレジデンシの脆弱性
116	1995年 2月	佐々木 肇	アメリカ研究事始め
117	1995年 4月	秋元英一	四月になれば……
118	1995年 7月	宮里政玄	「ポスト冷戦期」雑感
119	1995年 9月	五百旗頭真	アメリカが見えない
120	1995年 12月	江口裕子	プラス・ドストイェフスキー・ボオ覚書
121	1996年 4月	吉田迪子	歌の声、小説の声
122	1996年 7月	小池美佐子	多文化主義のアメリカ
123	1996年 10月	佐々木隆	ひと夏のアメリカ研究
124	1997年 1月	榊原胖夫	中西部への旅
125	1997年 4月	油井大三郎	資料の日米ギャップを考える
126	1997年 7月	大井浩二	アメリカ伝記を読む
127	1997年 10月	辻内鏡人	戦争体験とナショナリズム
128	1998年 1月	林義勝	アメリカ史の授業と「ファカルティ・デベロップメント」
129	1998年 4月	横山良	二つの世界史シリーズとアメリカ合衆国史
130	1998年 7月	上杉忍	投票率の低下を考える
131	1998年 10月	行方昭夫	『アスベンの恋文』改訳など
132	1999年 1月	風呂本博子	「ナニー」の系譜
133	1999年 4月	古矢旬	マッカーシズム再解釈の動向
134	1999年 7月	紀平英作	「楽園への帰還」によせて

135	1999年 10月	砂田一郎	クリントンの時代
136	2000年 1月	馬場美奈子	20世紀末のエスニック作家とエコロジー
137	2000年 4月	大西直樹	アメリカン・グローバリゼーション
138	2000年 7月	上坂昇	研究者にとってのデジタル・ディバイド
139	2000年 10月	飯野正子	大統領選挙と日系人商務長官
140	2001年 1月	安武秀武	米国19世紀史像の新構想 - ホフスタッターからウィレンツへ
141	2001年 4月	石井修	「冷戦史」雑感
142	2001年 7月	能登路雅子	研究交流のギブとテイク
143	2001年 10月	油井大三郎	同時多発テロの衝撃
144	2002年 1月	菅英輝	「数多くの9月11日」
145	2002年 4月	小林富久子	2001年秋, Mario Savio Stepsにて
146	2002年 7月	松尾式之	「独自の視点をもったアメリカ学」
147	2002年 10月	白井洋子	「知」のあり方を問われて
148	2003年 1月	荒このみ	アルファベットの基準
149	2003年 4月	児玉実英	ペリー来日150年 - 「白旗差出の件」をめぐって
150	2003年 7月	桑井輝子	断片が記憶となるとき
151	2003年 10月	島田太郎	AC30年の感概
152	2004年 1月	渡辺利雄	「クレイジーな崖」ってどんな崖なのだろうー村上春樹訳『キャッチャー・イン・ザ・ライ』を読むー
153	2004年 4月	巽孝之	伝統とアメリカ人の才能
154	2004年 7月	島田真杉	兵士の慰霊と記憶のポリティクス
155	2004年 10月	松本悠子	歴史の手触り
156	2005年 1月	竹田有	働く意味の崩壊!?
157	2005年 4月	武藤脩二	ケイ, ギルマン, メイマー, らいてふーフェミニズムの連鎖ー
158	2005年 7月	阿部珠理	アメリカから, アメリカへ
159	2005年 11月	杉浦章介	Universal Jurisdictionとアメリカ
160	2006年 4月	齋藤眞	アメリカ学会成立の頃
161	2006年 7月	山里勝巳	沖縄のアメリカ研究
162	2006年 11月	遠藤泰夫	ワルシャワのアメリカ研究
163	2007年 4月	森本あんり	就任宣誓と政教分離
164	2007年 7月	小林憲二	冷戦期のW.E.Bデュボイス
165	2007年 11月	西崎文子	「新大陸」へのまなざし
166	2008年 4月	竹中興慈	「賽の河原の……」
167	2008年 7月	伊藤詔子	「Tragedy, Comedy, Ecology」
168	2008年 11月	大津留(北川) 智恵子	「希望, 変革, そして現実」